

平成30年度
2月号

新しい年を迎え、早くも1ヶ月が過ぎました。1月は行く、2月は逃げる、3月は去る…月日が経つのは早いですね。お子さんの成長も同じで、数ヶ月前を振り返ると、成長を感じられていることと思います。子育ても、家庭のことも、忙しい日々の中ではありますが、“今しかないこの瞬間”を楽しみたいですね。

気温がぐっと下がり、体調を崩された方もいらっしゃるのではないでしょうか。寒くなると、いわゆる“冬の風邪”や“インフルエンザ”などが流行するようになります。手洗い、うがい、加湿…気を付けていてもかかってしまうこともあります。そんな時にはしっかりと体を休めてください。

来月<3月の予定>

月	火	水	木	金
				1
4	5	6	7	8
双子サークル	あおぞら広場	赤ちゃん広場	あおぞら(さくら) びよびよ (中公)	
11	12	13	14	15
H29・30 生まれ広場	親子遊びの 広場	赤ちゃん広場 びよびよ (南吉井保)	あおぞら(さくら) びよびよ (上林保)	H28 生まれ 広場
18	19	20	21	22
ママサークル	あおぞら広場	赤ちゃん広場		
25	26	27	28	29
H27 生まれ広場				

「はじまりは愛着から 人を信じ、自分を信じる子どもに」

～絵本を読み聞かせる 一体感を味わう幸福～

児童精神科医である佐々木正美先生の著書「はじまりは愛着から」の中から、乳幼児期に大切にしたいことを11月号からシリーズでお伝えしています。今回は、「絵本の読み聞かせ」についてお伝えします。

絵本を読み聞かせるもっとも大切な意味は、親子と一緒に絵本の世界にひたる「一心同体」の世界で喜びを分かち合う体験にある、と佐々木先生。

母親(養育者)が、自分の膝に幼い子どもを前向きに座らせ、子どもの背中が自分の胸と触れ合うように両腕に抱え込んで、両手に持った絵本を子どもの目の前に広げて読み聞かせは始まります。この時、子どものためというよりも、母親自身が絵本の世界に入り込んでしまうことが、子どもにより大きな感動を与えるでしょう。そんな「一心同体」の世界で、子どもは母親の声で絵本の文章を聞き、母親の指先で教えられるように絵本の絵をみていきます。そして、喜びを分かち合います。

私たちは本来、相手と喜びや悲しみを分かち合うことを求めて生きる存在です、と佐々木先生。誰か相手に喜びを与えていることが、自分にとっても喜びであるように、自分の悲しみを共有してくれる人に恵まれることを、大きな幸せと感じます。ですから、子どもたちには、将来、誰とでも喜びや悲しみを分かち合える人格を育ててあげたいですね。そのためにも、幼い子どもを自分の胸の内にしっかりと抱き、言葉と絵の世界を共有できる一心同体の時間を大切にしたいですね。そして、子どもの目や表情が生き生きと輝いて、胸の鼓動が高鳴ることに、読み手の私たちも感動や喜びを感じたいですね。

参考図書：佐々木正美著 「はじまりは愛着から 人を信じ、自分を信じる子どもに」

この本は子育て支援センターで貸し出しもできますので、興味がある方は声をかけてください。



「体に触れて遊びましょう」

お子さんの顔・体、いろいろな所に触って触って…スキンシップが楽しい！！って思えるといいですね。

向かい合わせで座っても、寝転がせたままでも…お母さんがニコニコ顔で触れてくれるのが、安心にもつながります。

～だんご だんご～

だんごだんごくっついた	両手をグーにして、上下で交互にトントンします(げんこつ山のたぬきさんの要領で)
びたっ	片手をグーのまま、ほっぺにくっつけます
くっついた びたっ	もう片方も同じようにくっつけます
くっついたけどはなれた	そのままほっぺをぎゅ～っと押して
ぱっ	両手をぱっと離します

「びたっ」とか「ぱっ」とか短い言葉でのやり取りは、分かりやすいですよ。繰り返ししていると、そのタイミングが分かって、今か今かとお子さんの目がキラキラしてきます。リズムを気にされる方もいますが、そこはオリジナルで大丈夫！もちろん、触る部分もお腹や頭、いろいろアレンジできます。我が家のリズムや楽しみ方を作ってくださいね。

遊びの広場からのお知らせ

<子育て・サポート親子遊びの広場より>

今月の予定 2月12日(火曜日)
場所 中央公民館2階 大ホール
9:30～受付
10:00～「いろいろな遊びを楽しもう」



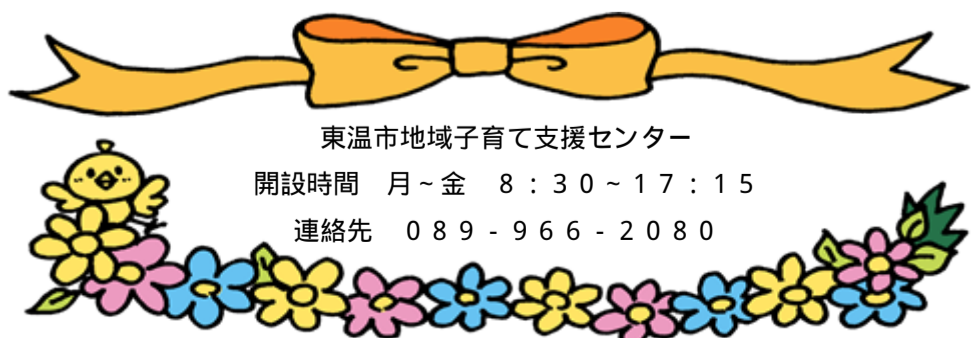
「言葉の発達について」

先日、「幼児期の発音・言葉の発達について」というお話を聞いてきました。

『ことばはピルの最上階』と言われていて、言葉が発達するには、ビルや建物の基礎が大事であるのと同じように、言葉が育っていくまでの土台部分が大事だということです。

その土台とは、規則正しい生活や十分な睡眠、家族が楽しい雰囲気の中で食べる食事、体の発達に沿った十分な運動といった基本的生活習慣であったり、求めたら応えてくれ、必要な助けを与えてくれる人との愛着関係をしっかりと築く、年齢に応じた遊びや豊かな体験や経験をすることが言葉の拡充につながったりするとのこと。

また、親が子どもの話を聞く、共感しながら話を聞くことで、より話そうとしたり、会話も広がったりするようです。言葉の獲得は音声模倣からとも言われます。赤ちゃんの時からたくさん話しかけたり、喃語を発するなどした時には、「そうなの」と応えたりしてあげたいですね。



東温市地域子育て支援センター

開設時間 月～金 8:30～17:15

連絡先 089-966-2080